



発寒ひかり
保育園だより

2024年
11月号

巻頭言

先日、ばんび組と一緒にしらいの森へ行きました。そこは木や草花などの自然がいっぱいで、子どもたちの大好きな場所です。

保育士が細い木を何気なく立て掛けていると、子どもたちが集まってきました。「テントみたいだね」という一言がきっかけで早速キャンプごっこが始まったのです。直径40cmほどの大木を見つけたSくんは、手で運べないことに気づき「これで運ぼう」と、どこからかロープを見つけてきました。なんとかしてロープを木にくくりつけ「わっせわっせ」とお友だちと力を合わせて運び出すことに成功。大木を長い椅子に見立て遊び始めると、壊れている木の板に工夫を凝らしてテーブルも作るなど、キャンプごっこが盛り上がってきました。次回の活動は公園に行く予定でしたが、子どもたちから「つづきがしたい」と熱い要望があり、予定を変更してしらいの森に行くことにしました。

待望の二回目。しらいの森に到着してすぐキャンプごっこの続きが始まりました。保育士がこっそり用意した布を出すと「ここ（木）にかけよう」と、本物のテントのようになり子どもたちは大興奮。葉っぱに枝をさして作った魚の塩焼きやつぶ貝を焼いたり、アイデアが溢れ出てくるのでした。

遊びの主役は子どもたち。保育士はほんの「ちよい足し」をするだけで遊びが発展し、子どもたち同士で考えや意見を出し合って遊びが深まっていきます。子どもが発想力を大切にしながら、これからも一緒に全力で遊びを楽しんでいきたいと思えます。

くりファミリー担任 高橋 郁美